

平成 21 年 5 月 25 日現在

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2006～2009

課題番号：18320035

研究課題名(和文) アジア的美意識とは何か

研究課題名(英文) About an aesthetic sense of Asia

研究代表者

神林 恒道(KAMBAYASHI TSUNEMICHI)

立命館大学・先端総合学術研究科・教授

研究者番号：80089862

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学、美学・美術史

キーワード：アジア、美学、伝統と近代

1. 研究計画の概要

西欧のモダニズムに偏って視点からではなく、多文化的なインターカルチュラルな立場から、アジア諸国の固有な芸術文化を何たるかを尋ね、そこから改めて「アジアの美学」を再構築しようという計画である。

2. 研究の進捗状況

(1)すでにこれまで、台湾(台北)・韓国(釜山)・インドネシア(バリ島)・日本(京都・立命館大学)などで、5回にわたって国際研究集会を開催し、相互の文化交流と理解を深めてきた。

(2)「韓国近現代美術史 Youngna Kim: 20th Century Korean Art」および「陳望衡：中国美学史」などのアジア諸国の近代芸術と伝統的文化を論じた、重要な基本的文献の日本語への翻訳の作業も進捗している。また双方向的に「神林恒道：近代日本《美学》の誕生」の中国語訳も進行中である。

(3)本研究を展開する上での中核となっている「アジア藝術學會 The Asian Society of Arts」から英文機関誌(The Journal of Arts and Aesthetics)が、台湾支部の協力のもとで発行されるはこびとなり、2008年12月に第1号が発刊された。

(4)この記念すべき第1号には、過去5回の大会(京都・釜山・台北・バリ島・京都)で選ばれた9本の研究発表論文が掲載されているが、加えて、前国際美学学会会長からの東西「美学」交流への提言などもあり、文字どおり未来に向けて、インターカルチュラルな美学・芸術学研究の地平を切りひらく画期的な学術雑誌となった。

(5)本年は10月に、中国武漢大学が主催で「環

境美学」をテーマに第6回国際研究集会が開催される予定となっている。これらの国際研究集会は、いずれも「アジア藝術學會」の各支部のボランティアで運営されてきており、本研究に関わるアジアの研究者たちの熱気が感じられる。

3. 現在までの達成度

当初の計画以上に進展している。すなわちアジア諸地域に「アジア藝術學會」の支部(台湾・中国・韓国・インドネシア・タイ・トルコ等)が次々に結成され、活発な学术交流が進められおり、相互理解のための翻訳作業も進行している。またほとんど毎年、活発な国際研究集会が開催されるようになってきている。これらの成果を発表する欧文雑誌の刊行も、本研究の達成度の高さを裏付けものである。

4. 今後の研究の推進方策

本年度はまとめの年であり、これまでの個別的研究を集大成する作業に入っている

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計21件)

神林恒道「ドイツ・ロマン派の風景画とはその位置づけと広がりについて」『文明と哲学』第一巻、2008年、117-137頁、査読無。

大橋良介「歴史と身体 西田哲学の歴史思惟」『理想』681巻、2008年、5-16頁、査読無。

Haruhiko Fujita "Letters on Images:

Concerning Japanese Art” International Yearbook of Aesthetics No.12, 2008 年、68-90 頁、査読無。

〔学会発表〕(計 12 件)

神林恒道『張啓華の画業について』第八回アジア芸術学会台北大会(2008 年 12 月 17 日、台湾・台北)。

Haruhiko Fujita “Art, Craft and Architecture for the People” The 8th International Conference on the History of the Arts and Crafts Movement, (2008 年 7 月 2 日、オランダ・ライデン)。

Shin Nakagawa “Recovery Support and its Distance” Academic Forum, extra-conference, (2008 年 5 月 27 日、ガジャマダ大学・インドネシア)。

〔図書〕(計 6 件)

並木誠士『絵画の変 日本美術の絢爛たる開花』(2009 年、中央公論新社、271 頁)。
藤田治彦(責任編集)『近代工芸運動とデザイン史』(2008 年、思文閣出版、334 頁)。
神林恒道・新関伸也編著『日本美術 101 鑑賞ガイドブック』(2008 年、三元社、234 頁)。